

授業作り	重 点	・タブレット端末の活用による学習活動の充実。 ・協働的な学びの推進。特に、「対話的な学び合い」の追求。 ・「なぜそうなったのか。」「どうしてそうなるのか。」を追求する授業。
環境作り		・日常的な言語活動の充実。（伝え合う活動、ペアトークなど） ・学びのユニバーサルデザインを生かした授業。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・自分の思いを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。 ・出し抜けに話し、人の話を遮ってしまうことがある。最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・ひらがな、かたかな、漢字を正しく読んだり書いたりすることができるよう、繰り返し練習する必要がある。 ・5、10 など数の構成を理解し、計算できる力を付ける必要がある。	①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。 ②タブレット端末、デジタルドリル、プリントを活用し、繰り返し練習する。 ③ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ④具体物の操作を取り入れた学習を推進する。 ⑤読書を奨励する。
2 学 年		・自分の考えを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。 ・話の内容を落とさず、最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・拗音、促音、漢字などを正しく書くことができるよう、書いたり、読んだりする活動が必要である。 ・たし算、ひき算、かけ算などの基礎的な計算の仕方が確実に分かり、速く解くことができるようにする必要がある。 ・文章問題を理解する力を付ける必要がある。	①机間指導や個別の声掛けを毎時間実施する。 ②タブレット端末、デジタルドリルを活用する。 ③漢字小テストを実施する。 ④ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ⑤具体物の操作を取り入れた学習を推進する。 ⑥読書を奨励する。 ⑦基礎的な計算問題を反復して行う。
3 学 年	・拗音、促音、漢字を正しく書くことが難しい児童が複数いる。 ・文章の書かれている意味を読み取ること課題がある。 ・かけ算の理解がまだ十分でない児童が複数いる。 ・時計の読み方や単位の理解力に課題がある。	・拗音、促音を正しく使い簡単な文章を書く。 ・既習漢字を使い、文章を書く習慣を身に付ける。 ・文章を読み、書かれている内容を理解する。 ・四則計算の基本的な計算方法を理解する。 ・時計の読み方、単位についての理解を深める。 (Lとd Lの関係、cmとmmの関係など)	①文章を書く機会を意図的に設け、正しい文章の書き方に慣れる。 ②家庭学習と漢字小テストで既習漢字を覚える。習熟度に応じて、再テストを行う。文章を書く際に既習漢字を使うよう指導する。 ③文章の内容を理解しているか確認しながら授業を進める。 ④家庭学習やタブレット端末を使い基

			礎的な計算を繰り返し行う。かけ算、わり算の復習を定期的に行う。 ⑤朝ドリルの時間や家庭学習などで時計や単位の復習を定期的に行う。
4 学 年	- 漢字を読むことはできるが、正しい筆順で、漢字を正確に書いたり、文章の中で使ったりする力が弱い。 - 話の大事なところを落とさずに聞く力を付ける必要がある。 - 位をそろえて筆算を書き、正確に計算することが苦手な児童が複数いる。また、見直しをせずケアレスミスをする 경우가あり、正確さに欠ける。	- 学習した漢字を文章の中で積極的に使う。文字の形を整えて丁寧に書く習慣を身に付ける。 - 積極的に発言する児童は多いが、発言内容がまとまらずに話す児童が多いので、自分の考えや感想などをまとめてから話す。 - 話を最後まで聞き、大事なことを落とさずに聞き取る。 - 計算問題は積極的に取り組む児童が多い。見直しすることを習慣化させる。 - 九九を定着させ、かけ算わり算の筆算が正確にできるようにする。 - 算数の作図技能を身に付ける。 - 家庭学習の提出状況に課題があるため、家庭で学習をする習慣を身に付ける。	①漢字小テストを実施する。机間指導やノート点検時に、既習漢字を使うよう指導する。 ②自分の考えや感想を書く活動を多く設定する。 ③家庭学習の習慣を身に付けるために、家庭での学習課題を出し、点検する。デジタルドリルを活用する。 ④朝ドリルの時間などに、九九暗唱とプリントで定着を図る。筆算の基礎問題の反復練習をする。 ⑤日ごろからコンパスや定規など算数の道具を使うようにして、扱いに慣れる。
5 学 年	- 漢字の定着が全体的に不十分であり、板書を写すときや文章を書くときに平仮名表記が多くなる児童が多い。 - 基本的な計算の仕方が身に付いていない児童が多数いる。 - 友達と意見を交換することには積極的だが、大切なことを落とさずに聞く力を付ける必要がある。	- 机間指導をして、授業の中で漢字を使って書くことを徹底させる。漢字の宿題や小テストを繰り返し、1～4年の漢字も正しく書けるようにする。 - 基礎計算力と集中力を身に付ける。 - 友達の意見を聞くだけでなく、ノートに書く習慣を付ける。	①家庭での漢字学習を毎日確実に行わせる。漢字小テストは週に1回行い、満点になるまで再テストをする。 ②算数の授業のはじめに、かけ算・たし算・ひき算の基礎計算を繰り返し行う。計算力が不十分な児童には、プラスの宿題を出して、基礎学力を向上させる。放課後10分程度個別学習を行う。 ③積極的に手を挙げない児童にも指名して発言させ、話すこと・聞くことの力を付ける。
6 学 年	- 言葉の知識を増やしたり、漢字を正しく書く力を身に付けたりすることが必要である。 - 書く領域の未解答児童が多いため、自分の考えを表現する力を身に付けることが必要である。 - 算数では基礎的な計算や文章問題に課題が見られる。	- 授業中の机間指導や友達との対話を通して、多様な表現方法を身に付け、語彙力を身に付ける。また、新出漢字の学習やノート提出等を通して、漢字を正しく使う習慣を身に付ける。 - 毎時間、自分の考えや学習のまとめを書く機会を設け、書く習慣を身に付ける。 - 毎時間、問題演習の時間を設け、児童の理解度に応じた個別指導をすることで、学習内容を着実に身に付けることができるようにする。	①デジタルドリルを活用する。 ②漢字小テストを毎週実施する。 ③単元末テストを活用して学習内容の理解度を把握し、個別指導を通して学習内容の定着を図る。 ④毎時間自分の考えを記述する。 ⑤毎時間学習した内容を自分の言葉でまとめる。 ⑥既習事項と単元とのつながりを意識した授業を展開する。 ⑦友達の考えをモデル化する。